



市の主催による毎年の 実施はできないか

「遺族会とも協議し検討したい」

遠藤 英樹 議員



議員 閣
議決定で
各都道府
県及び各
市町村に
おいては
適切な時
期に戦没
者追悼式
典を行う
よう求め
られている
。日本国
民において
310万人と
言われる犠
牲者を出し
た、さきの
戦争に思い
を致し、後
世にたすき
をつなぐた
めに命を失
った先輩た
ちに感謝と
敬意を払う
ことは、非
常に大切な
ことである。
市の主催も
しくは市と
遺族会共催
で戦没者追
悼式典を毎
年実施する
べきと考え
るが、どう
か。



戸田市戦没者追悼式

とである。市の主催もしくは市と遺族会共催で戦没者追悼式典を毎年実施するべきと考えるが、どうか。

議員 議会事務局は専門職3名が来年には全員退職してしまう。これに対応するには人数をふやすか、議会事務局職員の専門化を図るしかない。同様のことは執行部にも言える。複雑、高度化する市民ニーズに、これまでより少ない人数で対応していくことは大変困難である。議会事務局機能、さらには執行部の機能を維持、向上させていくために、一定数

は専門的な見地からの採用または専門家としての育成が必要であると考え、どうか。

保育園

「待機児ゼロ」宣言の 達成を

「認可保育園の整備を進める」

岡寄 郁子 議員



議員 市長の記者会見で、「待機児ゼロを目指す」との表明を歓迎する。25年4月の待機児童数を34名としてい

るが、233名では、**子ども青少年部長** 認可保育園に申し込みながら入所できていない人数は233名だが、国の定義により、家庭保育室入所者、育休中、

議員 来年度3園180名定員がふえるが、待機児ゼロ実現にはさらに整備が必要では



待機児ゼロを目指す
求職中などを除いた人数が34名となる。国定義だけでなく、認可保育園の入所希望者を考慮し、認可保育園の整備を中心とした対策を講じる。

遅れている聴覚障がい者福祉の充実を
議員 日本は聴覚障がい者の認定基準が厳しく、多くの中軽度難聴者が福祉の対象から外れている。市でできる福祉の充実を求める①市役所窓口で「筆談できます」の表示②図書館での字幕入りビデオ貸し出し③中軽度難聴者の補聴器購入への補助④災害時避難所に手話通訳者の派遣。

公正・公平な制度に 改善を

「現状で問題ないと考えている」

望月 久晴 議員



議員 公正・公平な入札制度は競争性が担保されなければならぬ。戸田市の入札結果では、入札参加業者が1社や2社の入札もあった。公正な競争が行われていない。こうした入札は今後やり直すべきではないか。

議員 入札参加業者の半分以上が最低制限価格より低い価格で入札して失格になっている入札がある。最低制限価格が高過ぎるためで税金が無駄に使われたことになる。今後は、失格業者が半分以上出た入札は、入札をやり直すべきではないか。

財務部長 競争性が働いた結果であり、問題ないと考えている。



適正な入札制度を

財務部長 戸田市では国の基準を参考に、資材、労務費などさまざまな要素を勘案して最低制限価格を決めており、問題ないと考える。

水害対策

緑川の整備計画が 進まない理由は

「43年前の反対請願採択が障害に」

高橋 秀樹 議員



議員 地球温暖化等の影響で、時間当たり50ミリを超える豪雨に対応した、雨水の排水施設が必要では

上下水道部長 国の交付金基準は時間当たり50ミリ対応で、河川の許容量の関係もあり、排水管を大きくすることは難しい。雨水貯留施設や雨水浸透ますの増設で対応する。

議員 水害対策として、河川の拡幅や整備は必要である。緑川は昭和44年に都市計画決定がされ、43年間も整備が進まない理由は



環境経済部長 昭和45年に戸田市議会で「緑川改修計画廃棄に関する請願」が採択されたことにより、整備が休止状態となっている。

市長 地元の合意が必要で、議会も協力して

防炎対策として、飲料水兼用防火貯水槽
議員 阪神・淡路大震災では、水道管の破損や道路が破壊され、消火がはかどらず、大惨事になった。水道水が使用できなかったことを教訓に「飲料水兼用の防火貯水槽」を設置してはどうか。

消防長 防火用貯水槽は、公設・私設で803基あり、今後も計画的に進めていく。飲料水との兼用は難しい。

公共施設にプロジェクトターの設置を
議員 福祉関係の公共施設にプロジェクトターを設置してもらいたい。